



大正大学講師 高橋 秀城

(61)

みそ萩や
水につければ
風の吹く
(小林一茶)



す。スベスベした樹皮を
持つ百日紅も、同じミソ
ハギ科の植物です。
ミソハギは、漢字では
「萩」と書きます。鎌
倉時代の語源辞書に「か
の草は悪鬼をさらしむる」
と記し「名語」として
載れていることから、穢れ
を祓い、この身を洗い浄
める草花として考えられ
ていたのでしょう。
ミソハギは「盆花」「精
霊花」という別名を持
っているように、毎年お盆
（盂蘭盆会）の時期にな
ると、お仏壇や、お墓な
どの仏前に供えられます。
ご先祖様をお迎える精
霊棚（盆棚）には、茄子
や南瓜、里芋などを賽の
目に刻んだ「水の子」を
飾り、その横にミソハギ
の束を置いた「閻伽水」
（仏様に差し上げる水）
を供えます。手を合わせ

る際には、閻伽水に浸し
たミソハギの束を「水の
子」に注ぎますが、これは
水分と喉を潤す作用のあ
るミソハギを、ご先祖様
に捧げる意味があるので
す。
冒頭の小林一茶（二七
六三）（一八二七）の句は
亡き妻の新盆（初盆）に
詠まれたものです。一茶は
お盆に帰ってきてくれた
愛妻の労を、久しぶりに
ねぎらったのでしようか
…それに答えるかのよう
に「ありがとう」の風
が一茶の頬を撫でました。
それは、大切な人を思い
返す度に込み上げてくる
涙を、そっと拭ってくれ
た優しい風であったのか
もしれません。
亡き人の
この世に帰る
面影の
あはれ更け行く
秋の灯火
(隆祐集)

ていく初秋の灯火よ
「秋の夜長」と言いま
すが、積もる話に、時の
経つのも忘れてしまいそ
うになります。日常の悩
み事を相談すれば、きつ
と灯火がゆらゆらと揺ら
めいてくれるでしょう。
それは、これからの人生
を良い方向に道案内して
くれる、亡き人の「法の
灯火」に違いありません。
お盆の時期は、ご先祖様
に感謝しつつ、いつにも
増して身を浄め、心静か
に過ごしたいものです。
このように「心身を浄
め、行動を慎むこと」を
「精進」と言います。仏
教語では、「途に仏道
修行に励む」という意味
ですが、日頃から悪いも
のを断ち、善い行いに精
神を集中する必要があります。
とは言うものの、「枕
草子」に「たゆまるもの。
精進の日の行い」（自然
と気が緩んでしまうもの。
精進の日のお勤め（勤
行）」と語られているよ
うに、お盆のような特別

な日なのに、心の通い合っ
たご先祖様を前にすると
つい甘えてしまうことも
あるでしょう。なかなか
自分の心を律することが
できません。
仏教では、精進に対す
る怠り心（懈怠）と言
います。少し難しい言葉
ですが、「懈」には「怠
る」「緩む」という意味
があります。まずはこう
切らなければなりません。
ではどのようにすれば、
正しい精進（正精進）
を身に付けることができ
るのでしょうか。
兼好法師（二二八三頃
〜二三五二以後）の『徒
然草』には、「懈怠」を
めぐって次のような話が
あります。
ある人が弓を射る技術
を習うのに、二本の矢を
手にして向かいまし
た。すると、これを見て
いた弓の師匠は言いまし
た。「初心者、二本の
矢を持つてはならない。
なぜなら後の矢を頼りに
して、最初の矢を適当に

折り折りの記 (95)

波多野 重雄

千年杉いつしか離る夏の月

高尾山の千年杉の樹の間を照らし、漂う夏の月
が昼の暑さを忘れさせるように、うつすらと空に
赤みをおびている。ふと見ると、白朧天の「月平
沙を照らす夏の夜の霜」の白々照らす趣もある。
武田信玄の歌「端居して山の端かこつ夏の夜は
月見るからに過ぐる東雲」に無聊な夏の月の儂さ
に耽ける思ひを知る。仰ぎ見る淡い月はいつしか中
天をわたる。

(高尾山健康登山の会々々)

思空海

虚空蔵真言

読誦百万遍

成満求聞持

秀才成天才

空海は 厚木市 荒井 一雄
虚空蔵求聞持法修め
記憶聰明 天才となりき
空海様を思ふ

虚空蔵菩薩 真言を
読誦なさると百万遍…

【虚空蔵菩薩求聞持明法】を
成満なされ、

（その結果、記憶力増大し、
八万四千の經典を即座に暗記なされ
秀才空海様は天才となられる…

する心が生まれるからで
ある。一度は失敗しても
良いと考えるのではなく、
この一矢で決めようと思
え」と。
わずかに二本の矢であ
り、師匠の目の前で無駄
にしようなどとは思わな
いでしょう。しかし、そ
の弛んだ怠り心（懈怠の
心）は、自分では気付
かなくても、師匠には分
かるのです。この戒めは
弓に限らず、あらゆる物
事に及びます。
道を学ぶ者は、夕方
には明日の朝があると思
い、朝には夕方があると
思っ、その時になつて
からしつかりと修行しよ
うとするものです。人は
それ程のものなのに、ど
うして「刹那（僅かな瞬
間）」の中で、怠り心
を知ることができるとい
うか。ましてや今の一念
（この瞬く間に）、すぐ
に実行に移すことは、な
んと難しいのでしょうか。
(第九十二段)
人間は、無意識に未
来を思い描いてしまいま

高尾山健康登山親睦会
高尾山清掃
高尾山健康登山親睦会では、
毎年、波多野重雄会長（写真
中央）他、有志の皆様が集まり、
ゴミ袋を片手に高尾山清掃を
しております。
初夏の日差しが感じられる
五月二十七日、一行は山麓よ
りゴミを拾いながら登り、信
徒休憩所にて休憩を取った後
は、各登山道に分かれて清掃
しました。
いつまでも綺麗で美しい山で
ありますよう願っております。



(「今昔物語集」)
人間には生まれがたく、
仏教にはめぐりあいがた
い。だからこそ、あえて
命を顧みないほどの覚悟
が必要である。
ミソハギの花言葉は
「慈悲」「愛の哀しみ」です。
ミソハギの「一滴を仏様に
捧げるように、一生の一
念の有り難さを、しっか
りと自らの心に刻んでい
きたいものです。
(栃木北部教区普濟寺)